

【実践事例（8）】

（石巻市立青葉中学校）

地域学校安全委員会における災害時の児童生徒等の安全確保に係る共有

学校の状況

- 校区は、東日本大震災の津波で甚大な被害を受けた地区である。
- 震災後、学校が主体となった地域防災連絡協議会を立ち上げ、地域と協力した学校防災に取り組んでいる。

取組方法

「青葉中学校・釜小学校区地域防災連絡協議会」について

目的 地域における住民及び事業所が一体となって自主的に防災対策活動に取り組み、防災意識の普及啓発及び防災訓練の徹底を図り、災害の未然防止と被害の拡大を防止すること

会員 校区内の町内会長及び自主防災組織代表、PTA会長、消防団班長、学校代表、市防災担当部局等

- 主な取組内容**
- ・年3回開催
 - ・災害時の対応についての共有と協議
（災害発生時の児童生徒の安全、避難所開設・運営、市総合防災訓練への参加体制等）
 - ・令和3年度から、中学生も参加し、学校での防災の取組を発表している。

○地域防災連絡協議会を通じた災害時の児童生徒等の安全確保に係る共有事例

1 市総合防災訓練に学校と地域が合同で参加する体制づくり

市総合防災訓練では、児童・生徒は自分の生活する町内会の訓練に参加し、地域の方々とともに、災害発生時の対応を確認するとともに、避難所設営や炊き出し訓練にも取り組んでいる。

2 学校防災体制に係る意見聴取

学校防災マニュアルを協議会委員に配布し、地域住民等の目線で、学校の防災体制に係る意見を聴取した。

聴取した意見を踏まえて、マニュアルの見直しを行っている。

3 学校の避難訓練を参観、評価

協議会委員が避難訓練を参観し、客観的な視点で、災害時の避難方法を評価し、意見等を学校へフィードバックした。

訓練の評価に当たっては、みやぎ避難訓練指導パッケージ作成委員会の「避難訓練指導チェックリスト」を活用した。

4 市防災担当部局等との災害時の対応を共有

協議会では、災害発生時の対応を共有するため、市の防災担当部局をはじめとする関係各課と情報交換の機会を持っている。

市より、避難指示の発令の在り方やハザードマップ等の情報発信、避難所開設や避難所における新型コロナウイルス感染症への対応等について説明し、関係者での共有や、災害発生時の対応の検討に生かしている。

